



2012.如月発行
ほほえみいっぱい運動
えん通信 vol.48

健康な生活とご縁は人生の舍



ほほえみを届けて

2011年7月、「えん通信

47号」復活発行直後、健康生活舎にありがたいお便りが数多く届いた。その中の一通が埼玉県で大正琴を教える西澤よしあら。久しぶりの発行となつた「えん通信」を懐かしく思い、是非再会したいと書かれていた。直ぐさま連絡を取り、8月、西澤さんが長野の健康生活舎を訪れてくれた。

西澤さんの亡きご主人であ

り、「草まつり」の知らせが届いた時、是非参加しなければ、そ

れもゆかりもない西澤さんが参加するきっかけとなつたのは、当時から健康生活舎が発行していた「ほほえみ読本」だ。知人から一冊の「ほほえみ読本」を渡され、何か運命を感じていた。その後、長野よしあらは、「草まつり」の知らせが届いた時、是非参加しなければ、そ

00を越える人が集つた。その大勢の中で、誠氏とその家族は一際印象的だったそうだ。

狩野の人たちと言葉を交わし、純粧にやさしく自然を愛する人々だと感じた。「何と表現したら良いか分からぬが、何かに引き付けられた。特に

誠氏は、父に良く似た感じの人だったことを覚えていた。」と西澤さんは涙を浮かべた。

2011年3月、歴史に残る大震災が起つた。そんな

中、埼玉県に被災者の方々が避難していた。西澤さんは何か出来ることはないかと考え、小学校の子どもたちに「ほほえみ読本」を届けることを思つた。しかも綺麗な手作りの袋まで用意し、本と一緒に渡したのだ。いくつものダンボー



琴西 指導師範
西澤よしあら

長野県佐久市出身、現在は埼玉県在住。平成元年より、大正琴教室「琴西」の師範として、約60名の生徒に大正琴の魅力を伝承する。ほほえみ読本の愛読者であり、全国に「ほほえみ」を届けている。

何故か…。



左 西澤よしあら
右 狩野万葉

健康生活舎にて

ほほえみ読本は誰が読んでも元気になる。色んな人に読んで欲しい。西澤さんは、ただその一心でほほえみ読本を様々な場所に運び続けている。ほほえみ読本は、被災地へもほほえみを届けていた。その後「ホームルームで子どもたちに読ませています。笑顔、ほほえみは人の心を癒し、勇気と元気をもらつた。」そう小学校の校長先生が感謝してくれた。その素直にほほえみ読本を受け入れてくれた校長先生の想いに、西澤さんは重ねるよう感謝した。

ほほえみ読本の波を留めたくない。日本全国に届けたい。それが西澤さんの願い。土を愛したご主人にも、きっと通じるものがあるからなのだろう。



小学校に届けた
「ほほえみ読本」と
手作りの専用袋

その年の「草まつり」にも300人が信州黒姫山麓に会い、草と土と自然とほほえみに感謝するお祭り。黒姫には

狩野家の出会いは、遡ること数十年前のこと。狩野万葉の父である故誠氏が主催していた「草まつり」だった。「草まつり」とは、全国からおよそ300人が信州黒姫山麓に会い、草と土と自然とほほえみ

西澤さんは農林省で土の研究に携わり、「土の絵本」など様々な書籍製作にも参加してい

た。ご主人の影響からか、西澤さん自身も自然や土に深く興味を抱いていた。

いついた。しかも綺麗な手作りの袋まで用意し、本と一緒に渡したのだ。いくつものダンボー

西澤さんより手作りの専用袋を頂いております。ご希望の方は、健康生活舎までお問合せ下さい。

(取材・記事 手塚剛司)